

# Decreased Estimated Glomerular Filtration Rate and Proteinuria and Long-Term Outcomes After Ischemic Stroke: A Longitudinal Observational Cohort Study

植木, 香奈

<https://hdl.handle.net/2324/7182329>

---

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名： 植木 香奈

論文名： Decreased Estimated Glomerular Filtration Rate and Proteinuria and Long-Term Outcomes After Ischemic Stroke: A Longitudinal Observational Cohort Study

(eGFR低下および蛋白尿と虚血性脳卒中後の長期臨床転帰：縦断的観察コホート研究)

区分： 甲

## 論文内容の要旨

慢性腎臓病(CKD)およびその基礎となる病態である腎機能障害や腎障害が、心血管予後にどのように関連しているかは依然、不明なままである。本研究では腎機能障害(推定糸球体濾過量 [eGFR] 低下)と腎障害(蛋白尿)のいずれかあるいはその両方が虚血性脳卒中発症後の長期臨床転帰に関連するかどうかを明らかにすることを目的とした。

2007年6月から2019年9月の間に病院をベースにした多施設登録研究であるFukuoka Stroke Registryに登録された急性期虚血性脳卒中患者連続12,576例(平均年齢:73.0±12.6歳, 女性41.3%)を対象として、脳卒中発症後から前向きに追跡調査を行なった。腎機能低下はeGFR(mL/min/1.73m<sup>2</sup>)で評価し、G1: ≥60, G2:45-59, G3:<45の3群に分類した。腎障害は尿試験紙法による蛋白尿で評価し、P1:陰性, P2: ±/1+, P3: ≥2+の3群に分類した。Cox比例ハザードモデルにより、対象イベントのハザード比(HR)および95%信頼区間(CI)を推定した。長期臨床転帰は全脳卒中再発と全死亡とした。

中央値4.3年(四分位範囲:2.1-7.3年)の間に、2481人が脳卒中再発(48.0/1000人年)、4032人が全死亡(67.3/1000人年)を発症した。CKDは古典的心血管因子を含む複数の交絡因子で調整後も全脳卒中再発および全死亡のリスク上昇に独立して関連していた。また、CKD構成因子であるeGFR低下と蛋白尿のいずれも脳卒中再発(多変量調整HR [95%CI]):G3 1.22 [1.09-1.37] vs G1, P3 1.25 [1.07-1.46] vs P1)および全死亡(G3 1.45 [1.33-1.57] vs G1, P3 1.62 [1.45-1.81] vs P1)のリスク上昇に独立して関連していた。サブグループ解析では年齢や脳梗塞病型で蛋白尿と全死亡との関連に効果修飾を認めた。

これらの結果から、腎機能障害と腎障害は独立して全脳卒中再発と全死亡のリスク上昇に関連しており、その関連性は異なるものであった。